

特集インタビュー

検査から早期がん治療・ESDまで!

消化器 内視鏡の

3つのチカラ



「鼻からの内視鏡」はカラダにやさしい検査
早期発見・早期治療で胃がんと対峙しましょう!

一宮西病院 副院長 兼 消化器内科 統括部長 森 昭裕

Apricot
Communications

検査から 早期がん治療・ESDまで! 消化器内視鏡の 3つのチカラ

一宮西病院 副院長 兼 消化器内科 統括部長 森 昭裕

内視鏡(胃カメラ)といえば“細いカメラを身体の中に入れて胃や腸の映像をモニターで映し出す”…多くの方がこのようなイメージかと思います。でも本当の目的は何?身体の中の“何か”を調べるだけ?今回は一宮西病院 消化器内科 統括部長である森昭裕医師に、消化器内視鏡の本来の目的、その真価についてお話してもらいました。

1 最大の目的は“早期発見”

内視鏡で何がわかるのですか?

内視鏡検査の究極の目的は“早期のがんを見つけること”です。バリウム検査では見つからないようながんも早期発見することができます。

早期の胃がん、食道がん、大腸がんの検査はもちろん、ポリープの切除、胆道がん診断、胆道結石の治療、各種止血術、黄疸、腸閉塞の診断治療なども可能です。



一宮西病院 副院長 兼 消化器内科 統括部長

森 昭裕(もり あきひろ)

2007年に「日本消化器内視鏡学会」学会賞受賞。2010年には「世界消化器内視鏡学会」研究賞受賞。海外医療雑誌での論文掲載、中国からの研修医師の受入(海外との医療交流)など、世界で活躍する内視鏡のスペシャリスト。

2 負担の少ない“経鼻内視鏡”

内視鏡(胃カメラ)といえば口から入れるものですよね? ちょっと抵抗があるのですが…

従来の内視鏡は口から入れるため「苦しいから嫌だ」という人も多いと思いますが、今は苦痛が少なく、検査中に医師との会話も可能な鼻から入れる内視鏡、“経鼻内視鏡”^{けいび}があります。この経鼻内視鏡は口から入れるものよりも細く、直径はおよそ5~6ミリです。鼻から入れるため嘔吐反射も少なく、身体への負担が少ない内視鏡です。

経鼻内視鏡検査は本当にラクなのですか?

口から入れる内視鏡を使った場合と経鼻内視鏡の場合で、患者さんの身体への負担がどれくらい違うのかを調べてみました。その結果、口から入れた時は、ストレスがかかると活発になる交感神経の刺激が強く、血圧の変化も高かったのですが、経鼻内視鏡の時はこの変化が明らかに緩やかでした。客観的に

見ても、経鼻内視鏡による検査は身体への負担が少ない検査だといえます。

2010年にはこの研究で“世界消化器内視鏡学会研究賞”を受賞しました。これにより「経鼻内視鏡は苦痛が少ない」というお墨付きを、世界的学会からもいただいたということになります。また、経鼻内視鏡でやっても苦しいという人は、大抵、麻酔が不十分な状態でやった方だと思います。私は麻酔を適切に塗れるように、専用チューブを開発しました。そういうものを使って麻酔を行えば、限りなく身体へのストレスを減らすことができます。“経鼻内視鏡だからラク”なのではなくて、“やる側がどこまで適切にやるかが大事”なのです。

経鼻内視鏡検査は胃の動きを止める筋肉注射や、意識を無くす注射も必要なく、車の運転など検査当日の行動も制限されません。お仕事やご高齢の方にもお勧めできます。

また、経鼻内視鏡は細いので画質が悪く、早期病変を見落とすことがあると心配される方もおられますが、それは誤解です。最近の経鼻内視鏡の画像の進歩はめざましく、新しいレーザー光を利用した種々の特殊光で、通常の経口内視鏡と全く変わらない、又はそれ以上の病変検出能力を有しております。

経鼻内視鏡で内視鏡検査の敷居を下げ、多くの方に内視鏡検査を受けていただければ、おのずと早期のがんを発見できる確率も高くなります。



3 ここまでできる!内視鏡によるがん治療“ESD”

万が一、がんが見つかったら…?

必ずしも外科的手術になるとは限りません。“ESD(粘膜下層切開剥離術)”という、早期がん治療に有効な、身体的負担の少ない内視鏡治療があります。(※経口内視鏡/静脈麻酔下で行う治療です。)ESDは、病変に応じて切除する範囲をあらかじめ決め、その周りを正確に切開し、剥離・切除する治療です。病変が深いもの(胃の内面の粘膜表面から外側の壁へ進行したがん)でなければ、どれだけ広い病変であっても一括切除が可能です。当院でも直径13cmの胃がんや、9cmの直腸がんの切除経験があります。以下のような手順で治療をします。



Message

当院では健診センターでピロリ菌および慢性胃炎の有無を血液検査で調べることができる「胃がんリスク判定(ABC検診)」を行っています。ピロリ菌感染または慢性胃炎のどちらかが認められれば、早期胃がん発見のため内視鏡検査を受けなければなりません。お話しした通り経鼻内視鏡であれば検査は苦しくはありません。なによりもまずは検査が大切です。早期発見、早期治療で胃がんと対峙しましょう!

2023年(竣工予定)

一宮西病院 新館B棟 始動!

一宮西病院は現所在地の南側敷地に、現在の建物と同規模の新館B棟を増築します(2023年竣工予定)。完成後の一宮西病院の総敷地面積・延べ床面積はともに約2倍、ベッド数は約1.6倍(497床→801床)となり、医療法人としては県下最大規模の病院になります。予防から救急・急性期、リハビリテーション、在宅復帰支援まで、「垣根のない医療」を提供できるようになり、これまで以上に地域医療へ貢献します。



▲一宮西病院・新館B棟完成イメージ。屋上ヘリポートでドクターヘリの着陸も可能。



▲イメージ内、左の建物が増築部分。



▲上空通路で既存建物とB棟を接続。

ためらわず! すぐに!

救急車を呼んだ方がよい症状

以下の症状がでたら、すぐに治療を受けないと生命にかかわったり後遺症が残ったりする可能性があります

- ① 胸の激痛、強い締めつけ感
- ② 背中 of 激しい痛み
- ③ 突然(もしくは目が覚めたら)
 - 激しい頭痛がする(未体験の激痛)
 - 手や足が動かしにくくなる
 - 言葉がしゃべりづらくなる
 - 歩きづらくなる



CBCラジオ「健康のつぼ」絶賛放送中!!

CBCラジオにて「健康の啓発」を目的としたコーナー「健康のつぼ」(午前ワイド番組「つぼいノリオの聞けば聞くほど」内)を放送しています。当院のドクターとつぼいノリオ氏と小高アナが「気になる病気について」トークを繰り広げます。



次世代の低侵襲治療を実現! 手術支援型ロボット



ダ・ヴィンチXi 始動!!

最新の第4世代モデル 次世代の低侵襲治療を実現

手術支援型ロボット「ダ・ヴィンチ」とは、術者が遠隔でロボットアームをコントロールし、腹部や胸部などの手術部位へ多角的に且つ容易にアプローチすることができる、次世代型の低侵襲治療機器です。一宮西病院は、従来型よりも操作性・機能が向上したダ・ヴィンチのフラッグシップモデル「ダ・ヴィンチXi」を、2021年より導入しました。泌尿器科領域、婦人科領域、消化器外科領域、呼吸器外科領域で稼働していきます。ダ・ヴィンチの導入により、一宮西病院での低侵襲手術の選択の幅が広がります。

一宮西病院 基本方針

24時間365日、いつでも
どんな怪我や病気も断らない

最新の設備と
高度な医療技術の提供

患者さま中心の
きめ細かい医療サービスの実践

一宮西病院

TEL0586-48-0077(代)

〒494-0001 愛知県一宮市開明字平1番地
(休診日/日曜・祝日・年末年始)

診療時間	月～金曜日	(午前) 9:00～12:00 (午後) 一部の診療科では午後診を行っております。詳しくはホームページをご確認ください。
	土曜日	(午前) 9:00～12:00

※救急の場合は随時受付応需いたします。※診療科により異なりますので、詳しくはホームページをご確認ください。

ここからも随時情報を発信中!!



ホームページ
はこちら



Facebook
はこちら



YouTube
はこちら